

追悼記事

故 石田名香雄先生を偲んで

理事長 海老名 卓三郎

(財) 仙台微生物研究所

本学会名誉会員・東北大学名誉教授・元総長 石田名香雄先生は平成21年12月4日逝去されました。ほぼ半世紀にわたって直接石田先生の下でつかえた門下生を代表して、お別れの言葉を述べさせていただきます。

一言で言いますと“巨星墜つ”で寂しいことの極みであります。

私が石田先生と出会ったのは医学部一年生の二十歳の頃で、石田先生が細菌学教室の教授になられたばかりでした。その時すでに先生はセンダイウイルスの発見者として有名でした。世界的な研究をしている先生の下で学びたいとの思いで、石田先生に頼み込み学生的身分ながら夏休みや冬休みに細菌学教室に通い実験の真似事をさせてもらいました。その時ポリオウイルスの抗原分析をウクタロニー法で成功させ、ほめられたことで医学部卒業後躊躇なく細菌学教室に入局しました。その後、石田先生とは、教授と助教授の関係、第6回国際ウイルス学会の会長と事務局長、退官後は石田先生がお作りになった(財)仙台微生物研究所の理事長と副理事長の関係で、先生が亡くなるまでの48年間にわたり、公私ともにお世話になりました。私にとって生涯の大恩師となった石田先生に巡り会えたことは幸運そのものであり、感謝し過ぎることはありません。

細菌学教室に入局して気がついたことは石田先生のいい意味での清濁合わせ飲む傑出した度量の広さです。石田教室には全国から医学・薬学・理学・農学部等の出身者が集い、常時50～60名の研究者で賑わっていました。“来るものは拒まず”で、基礎医学教室としては異例の大所帯でした。先生は、若い研究者には自由な発想で研究させながら、一人ひとりの長所を見抜いた指導を徹底されていました。先生の薫陶を受けて教室を巣立った研究者の中から、これまでに70名近くの教授が全国に輩出しています。石田先生は偉大な研究者であると共に大教育者でもありました。

石田先生の学問的業績は“センダイウイルス”の発見が有名です。ほぼ同時期に阪大・微生物病研究所、国立予防衛生研究所、名大・医学部でも同じウイルスを分離していたのですが、石田先生が最初に英語の論文を発表したことにより世界的には“センダイウイルス”と名づけられたと

のことです。その後センダイウイルスの研究は石田先生の助教授であった本間守男先生(現・神戸大・名誉教授)が中心になられて、プロテアーゼによるエンベロープ糖蛋白の開裂現象と感染性発現の発見へと発展いたしました。この発見は、従来の「ある細胞からウイルスが放出されれば、そのウイルスがそのまま感染性を示す」というウイルス感染の常識とは異なり、ウイルス感染が成立するためにはウイルス表面タンパクの一部が宿主側によって修飾されることが必要であることを見事に証明しました。また、センダイウイルスは阪大・微生物病研究所の故岡田善雄教授による“細胞融合能”の発見により細胞遺伝学の発展にも寄与しました。更に後年リンパ球に作用させるとインターフェロンが誘起されることが見出され、インターフェロンの大量生産にも結びついたのでした。

石田先生の業績はウイルス学分野に限ってみてもセンダイウイルス以外にもB型肝炎・C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、下痢症ロタウイルスやノロウイルス、インターフェロンやインターフェロン誘起剤、日本脳炎ウイルス、ポリオウイルス、スローウイルス感染症、更に臨床ウイルス学の研究など多岐にわたっており、英語の論文だけで435編にのぼります。勿論、石田先生の学問業績は、ウイルス学に留まらず、抗がん性抗生物質ネオカルチノスタチンの発見、免疫抑制酸性蛋白IAPの発見などにみられるように幅広い研究領域に及んでいます。

石田先生はウイルス学関係の学会活動でもご活躍になりました。ウイルス抑制因子研究会(現・インターフェロン・サイトカイン学会)に早くから参画されたり、臨床ウイルス談話会(現・臨床ウイルス学会)の設立に尽力されたり、またウイルス学会の国際化に努め、日米医学ウイルス部会の発足に尽力されたり、昭和55年には日本ウイルス学会総務幹事を務められました。さらに昭和59年国際ウイルス学会会長として第6回国際ウイルス学会を仙台で開催されました。当時エイズウイルスの発見があり、学会として特別ワークショップを開き、フランスのモンターニュ博士やアメリカのギャロ博士を招請し議論を闘わせたことが思い出されます。

石田先生は医学部教授として長年にわたり多大な研究業績と教育実績を挙げられると共に、東北大学医学部長として、また昭和58年から6年間にわたり同学長として大学の発展に大きく寄与されました。大学ご退官後は産官学協調で設立された(株)インテリジェント・コスモス研究機構の社長として、東北の産業発展にも大きく貢献されました。

以上のご功績により石田先生は、日本学士院賞(昭和62年)、朝日賞(昭和55年)、野口英世記念医学賞(昭和55

年)、河北文化賞(平成16年)など数々の受賞の榮に輝き、平成元年仙台市名誉市民に推挙され、平成8年勲一等瑞宝章を拝受されています。我々門下生は今後先生の心を意として頑張っていきたいと思っております。先生どうもありがとうございました。

これまでの長い間の先生のご指導とご功績に対し、限らない尊敬と感謝の意を表して心からのご冥福を祈り、偲ぶ言葉といたします。

故 石田 名香雄名誉教授 御略歴

大正12年3月6日	新潟県上越市に生まれる
昭和21年9月	東北帝国大学医学部卒業
昭和23年8月	東北大学医学部助手(細菌学講座)
昭和26年2月	医学博士
昭和26年3月	センダイウイルスの発見
昭和26年3月	東北大学医学部助教授(細菌学講座)
昭和29年8月	米国ミシガン大学ウイルス研究所留学(～昭和31年8月)
昭和35年4月	東北大学医学部教授(細菌学講座)
昭和40年4月	制癌剤ネオカルチノスタチン(NCS)を発見
昭和50年8月	東北大学医学部長(～昭和54年7月)
昭和55年1月	朝日賞受賞(B型肝炎研究グループの一員として)
昭和55年1月	日本ウイルス学会総務幹事(～昭和58年12月)
昭和55年11月	野口英世賞受賞(センダイウイルスの構造と機能)
昭和58年5月	東北大学総長(～平成元年4月)
昭和59年9月	第6回国際ウイルス学会を会長として仙台で開催
昭和62年6月	日本学士院賞受賞(センダイウイルスの発見及びその構造と機能に関する研究)
平成元年5月	東北大学名誉教授
平成元年5月	財団法人仙台微生物研究所理事長(～平成19年6月)
平成元年6月	仙台市名誉市民に推挙される
平成元年6月	(株)インテリジェント・コスモス研究機構取締役社長(～平成18年6月)
平成4年4月	日本医学会副会長(～平成10年3月)
平成8年11月	勲一等瑞宝章受章
平成21年12月4日	ご逝去(享年86歳)



石田名香雄先生